

## 女子大生における箸に対する意識調査

加藤 和子\*・橋内 範子\*\*・大島悦津子\*\*\*

About the investigation of consciousness toward  
the chopsticks of women's college students.

Kazuko KATO, Noriko HASHIUCHI, Etsuko OHSHIMA

### 1. はじめに

箸が、いつ頃日本に伝えられたかは諸説がある。『古事記』の出雲神話の「箸流れの伝承」、『日本書紀』の「箸墓説話」などから、箸は神代の頃に存在したといわれている<sup>1)</sup>。この神話に出てくる箸は古代の折り箸であり、青竹を折り曲げた鳥の嘴状で、「はし」の呼び名もその形状が「くちばし」に似ているところからきている。現在の二本箸とは形が異なっていたが、これを日本の箸の紀元とする説もある<sup>2)3)</sup>。また「はし」は「橋」からきたという説もあり、食べ物と人間の口を結ぶ「かけ橋」の意味があるとも言われている。「二本箸」が使われるようになったのは聖徳太子の時代で、中国より入ってきた二本一組の形で「唐箸」と呼ばれた。この頃の箸は素材が竹で作られていたため、箸という文字には竹冠があてられるようになった<sup>2)</sup>。平安時代中期には本膳料理が完成し、一つの膳に一对の箸が添えられるようになったことから、現在の「一膳」という呼ばれ方になった。以来、箸は日本の「一口大」という独特の食文化を象徴するものとして、欠かせないものとなっている。

ひとえに箸と言っても、長さ、形、重さなど、形状は様々で、「ハレ」と「ケ」などの行事ごとに使い分けがなされるなど、数多くの種類の箸がある。「お箸の国」と言われ、伝統ある習慣で私達が日常使用している箸が、現在の長さや形となったのは、箸の使い勝手や材質と深い関係があると思われる<sup>4)</sup>。長さについては、人差し指と親指を開いて指の間の角度を直角にした時、その長さを一咫(あた)と言い、一般的にこの数値を1.5倍したものを「箸一咫半」と呼ぶ。それは身長約15%であり、その人の手にあった箸の長さと言われている。最近では食生活の近代化や洋風化、社会化により、食事形式や行儀作法はおろか、箸でさえ満足に持てない人も多くなっている<sup>5)</sup>。核家族化した家庭では子供たちと言わず、そのしつけをする親も、きちんと箸を持てる人は多くないのではないだろうか。また、昔と比べて家族がまちまちの生活時間を持っている現在では、家庭で食事のマナーを身に付ける機会が少なくなった<sup>6)</sup>ことも要因の一つと思われる。

そこで今回は、普段何気なく使っている箸について、学生はどのような関心を持っているのか、

---

\*調理学研究室 \*\*調理学第1研究室 \*\*\*調理学第2研究室

またどのような現状であるのかを考察し、今後の学生指導に生かして行きたいと思い調査をしたので報告する。

## 2. 方 法

(1) 調査1：学生が普段使っている箸について

### 1) 調査対象

東京家政大学家政学部に在籍する学生83名。

### 2) 調査期間

平成15年6月。

### 3) 調査内容及び方法

アンケートによる調査を行いプリントを配布し、各問いに答えてもらった。項目は以下に記す。

#### 【お箸について】

問1 普段使っているお箸の長さは何cmですか。

問2 1のお箸は使いやすいですか。(はい・いいえ)

問3 あなたの手にあった「一咫半」のお箸の長さは何cmになりますか。

問4 1のお箸は誰が購入しましたか。

ア. 自分    イ. 家族(母親など)    ウ. その他

問5 1のお箸の購入理由はどのようなことですか。

ア. デザイン(きれい・かわいい)    イ. 長さ    ウ. 重さ

エ. 値段    オ. 特に理由はない    カ. その他

(2) 調査2：市場調査

### 1) 調査対象

東京・埼玉のデパート2件・スーパー2件・和食器店他4件。

### 2) 調査期間

平成15年9月～10月。

(3) 調査3：箸のマナーについて

### 1) 調査対象

東京家政大学短期大学部に在籍する学生41名。

### 2) 調査期間

平成15年10月。

### 3) 調査内容及び方法

女子大生における箸に対する意識調査

アンケートによる調査を行いプリントを配布し、各問いに答えてもらった。項目は以下に記す。なお、知っている箸のマナーについての項目は、高校の教科書<sup>7)</sup>より抜粋した。

**〔箸のマナーについて〕**

問1 知っている箸のマナーと意味に○を付けて下さい。

寄せ箸・箸を使って器を引き寄せること。いかにも横着な印象を与えるし、器を動かす音も耳ざわり。器は、いったん箸を置いて手で持って移動させる。

迷い箸・食べ物を前に、「どれにしようかな」と迷うように、箸を皿から皿へとうろうろさせること。あるいは、一度箸をつけたものを離して、別のものをつまむこと。

しごき箸・割り箸を割った後、左右の手で箸を持ち、しごきとこすり合わせることを言う。もし箸にささくれがあった場合は、しごかないで手でとるようにして。

移し箸・箸から箸へ食べ物を渡すこと。火葬の時の骨あげの際に使う方法なので、縁起が悪いとも最も嫌われる箸使い。ひとつの食べ物を二人一緒にささむのもタブー。

刺し箸・箸をフォークのように食べ物に突き刺して食べること。つまみにくいものを食べるときは、お皿の中でまず小さく切ってから取ると、うまくつまめる。

探り箸・盛り合わせの大皿料理の中を探り、下から好きなものを取る。きれいに盛り付けたものが台無しになってしまう。一人分ずつ小皿に分かれていれば、下から食べても良い。

渡し箸・箸を器の上に渡して置くこと。箸置きがあれば、必ずそこに戻すようにする。箸置きがない場合は、お盆やテーブルの上に直接箸を置いてかまわない。

ねぶり箸・箸先についた食べ物を口でなめて取ること。箸先が汚れていても、気にせずそのまま食べ続ければよい。どうしても気になるようだったら、懐紙やティッシュなどでそっと取る。

涙箸・食べ物を器から口に運ぶまでに汁をポタポタたらすこと。汁気の多いものを食べるときは器を持つか、あらかじめ器のへりで汁気をきってから口に運ぶようにする。

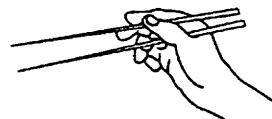
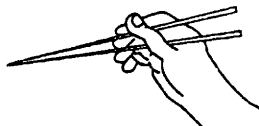
問2 箸のマナーは誰に習いましたか。

問3 あなたの箸の持ち方は伝統型、鉛筆型、その他のどれですか。

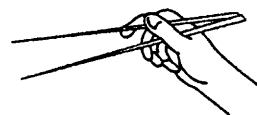
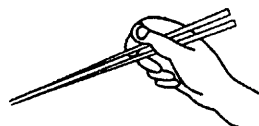
箸先を閉じた時

箸先を開いた時

**伝統型**

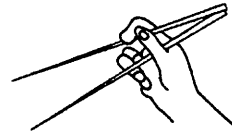
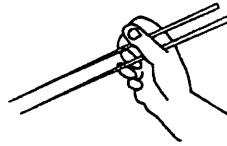


**鉛筆型**

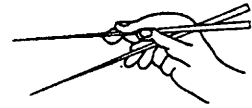
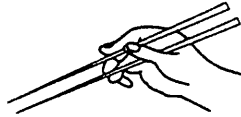


## その他の型

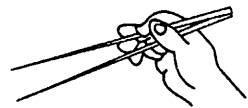
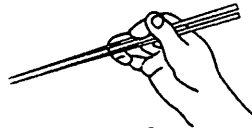
①中指は固定箸を支えている



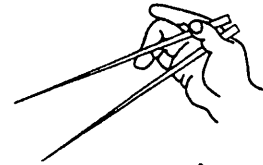
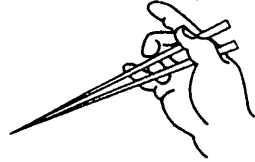
②持ち方は正しいが箸が斜に開く



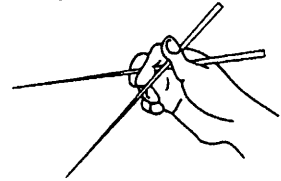
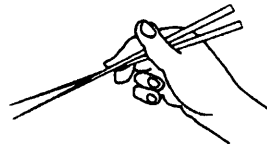
③小指だけで固定箸を支えている



④人差し指を使っていない



⑤船車型の持ち方で箸を開く方向が反対



箸のいろいろな持ち方 ものと人間の文化史「著」より

### 3. 結果及び考察

(1) 学生が普段使っている箸について

調査1のアンケート結果より、普段使っている箸の長さの結果を図1に示す。

図1より、20~23cmと答えた学生が58人(84%)であった。そして、その箸は使いやすいかという問2の結果を図2に示した。

図2より、使いやすいと答えたのが94%で、ほとんどの学生が現在使っている箸は使いやすいと答えている。この結果は、太田氏らの報告によれば、箸のつまみやすさと長さの関係は20~23.5cmの長さの箸が適当であると報告されており<sup>8)</sup>、この結果とも一致する。

次に、自分の手に合った箸の長さ、現在使っている箸の長さの差を図3に示す。

図3より、自分の長さに合った箸を使っている学生が一番多かったが、逆に自分の長さに合った箸を使っていない学生も66人(85%)いた。中には自分の手にあった箸の長さ、現在使っている箸の長さとの差が8cmも違う学生もいた。このことより、箸の長さは箸の作業能率にも影響する<sup>9)</sup>ので、正しい長さの箸を使うよう指導する必要性を感じた。

女子大生における箸に対する意識調査

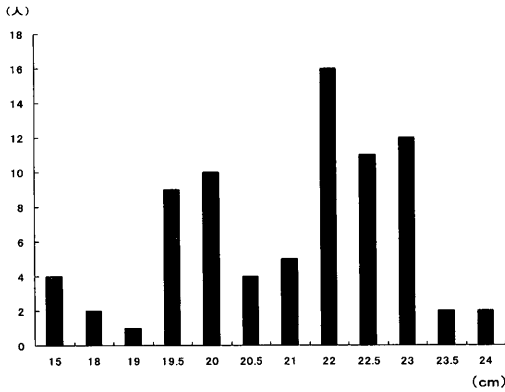


図1 普段使っている箸の長さ

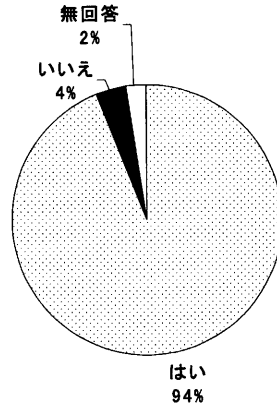


図2 普段使っている箸の使いやすさ

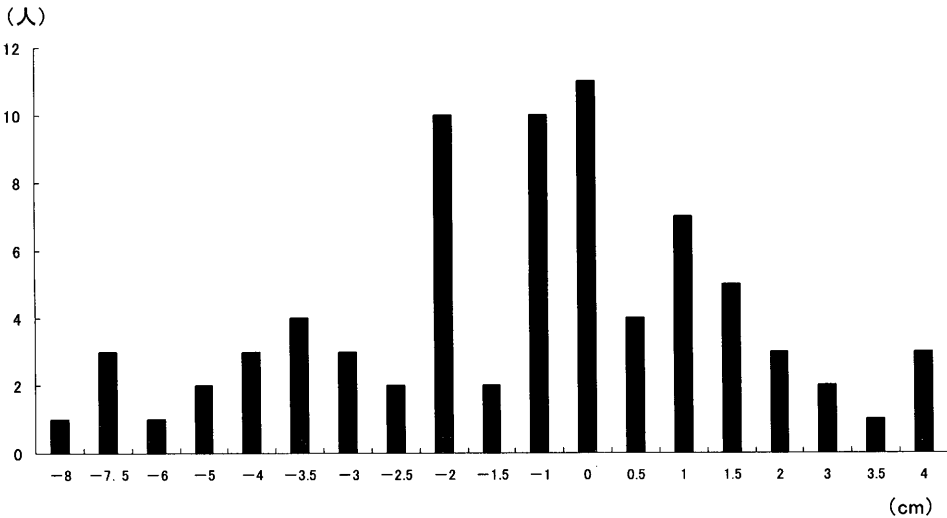


図3 箸の理想の長さとの差

次に、普段使っている箸は誰が購入したか（問4）と購入理由（問5）の結果を図4、図5に示した。

図4より、箸の購入は家族がしていると答えた人が半数以上で、人任せにしている傾向が見られる。

図5より、購入理由はデザインや値段で決めている人が70%以上で、箸の長さや重さを考えて購入している人は11%しかいない。これより、機能性よりも見た目の良さで選んでいることが分かる。箸に対する興味、関心、

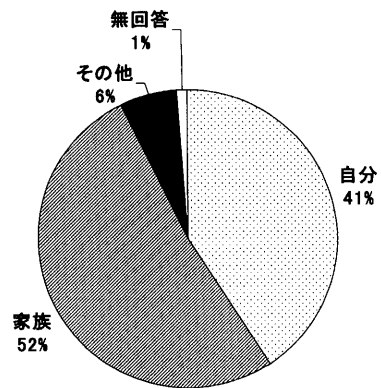


図4 普段使っている箸の購入者

知識が薄れてきている為、このような結果が得られたと思われる。

(2) 市場調査

本来、箸は自分の長さに合ったものを選んで使うべきもので、長さが大切であるが、学生のアンケート結果より、長さを意識して購入している学生は少ないように思われた。そこで実際、箸はどのように売られているのか市場調査を行った。

表1にその結果を示す。また、実際H店で売られていた箸を写真1に示す。

表1より、デパートでは長さ毎に箸がそろえてあり、きちんと長さも表示されているが、スーパー等では長さが表示されていない所が多く、長さの種類も少ないことが分かる。長さは23cm前後の箸が一番多く販売されており、先に述べた通り、使っている箸の長さの問いの結果に20~23cmが一番多かった理由もうなずける。また、日常使用する箸は、わざわざデパートまで行って

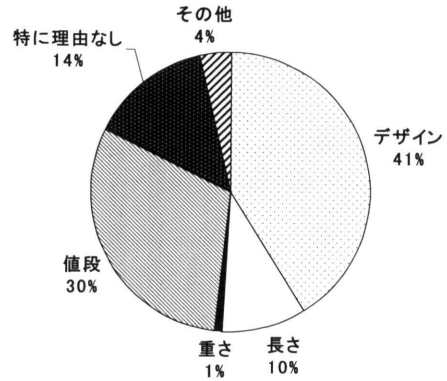


図5 普段使っている箸の購入理由

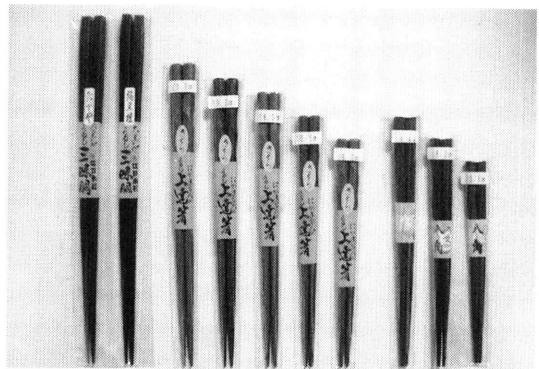


写真1 H店の箸の種類

左より23.5cmが2本、20.0cm、19.0cm、18.0cm、16.5cm、15.0cm、16.5cm、15.0cm、13.5cm

表1 市場売り場での箸の品揃え

店	箸の品揃え
Aデパート	16.5cmから0.5cm刻みで25.5cmまでの長さが揃えてある
Bデパート	16cmから1cm刻みで25cmまでの長さが揃えてある
Cスーパー	M,Lの大きさを表されているのみで明確な長さが記されていない
D店	すべて同じ長さの23cmのみの品揃えである
Eスーパー	デザインは豊富に揃っているが 23cm長さの物が主で、他に16.5cmと25.5cmが少し置いてある程度
F店	男性用と記された物と、23cmの二種類のみ
G店	デザイン豊富に揃っているが 箸の長さが明記されておらず雑然と並べてある
H店	箸の長さは明記されていないが、長さは比較的揃っている

購入する人は少なく、ほとんどは近所のスーパーなどで購入すると思われる。そこでは箸の長さを表示していないので、購入する側も箸の長さについては考えずに、デザインと価格重視で購入することになるのではと推測された。

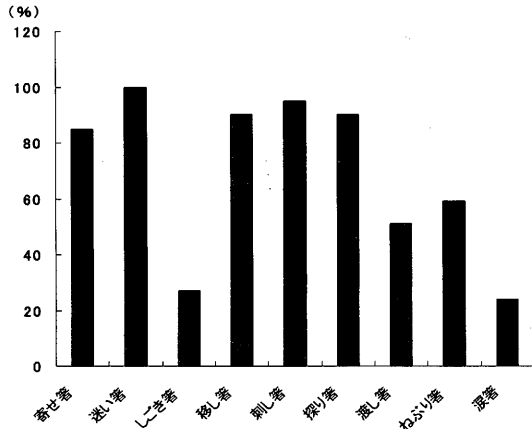


図6 知っている箸のマナー

### (3) 箸のマナーについて

現在、日本には和・洋・中と世界中の料理が混在しており、箸だけでなく、フォークやスプーンを日常生活で使う機会も多くなってきている。しかし、箸は日本人の食生活と密接に関係し、1500年の歴史をもつ食事用具である。箸はただ2本の棒にすぎないが、食べ物をきりわけ、つまむ、はさむ、すくいあげる、ほぐすなどのさまざまな働きをすることができる。箸は多機能な働きをするため、本来はフォークやスプーンで食べる西洋料理も、箸で食べる場合も

あり、これからもやはり箸が中心の食様式になっていくと思われる<sup>10)</sup>。

そこで、将来母親になり、子供に箸のしつけをするであろう本学栄養科の学生に、箸についてのアンケートをとり、どのくらい箸についてのマナーが出来ているのかを調べてみた。

知っている箸のマナーの結果を図6に示した。

図6より、一番知られているマナーは、どの料理にしようか迷う迷い箸で、調査した全員の学生が知っていた。逆に一番知られていないマナーは割り箸を割った後、ごしごしとこすり合わせるしごき箸と、箸の先から汁をばたばた落とす涙箸であった。現在は、汁をばたばたと落とすような食べ物を食べる時は箸ではなく、スプーンで食べるようになってきているため、このようなマナーを家庭で教える必要がなくなったことが、涙箸などのマナーが知られていない理由の一つと思われる。明治時代には学校で授業中に箸使いについて教えていた<sup>11)</sup>こともあったようだが、現在は食生活が軽視されている傾向もあり、授業で箸使いを教えるようなことはない。学校給食で先割れスプーンが使われたことも、学校で箸のマナーを覚える機会がなくなった原因の一つと考えられる。また、各家庭での食生活の変化で箸のマナーが変わり、昔はたくさんあった「お箸のタブー」も現代の食べ方に合わせ、少なくなってきているのではないかとと思われる。

次に、誰に箸のマナーを教わったかの結果を、図7に示した。

図7より、マナーを教わるのは両親で約60%、ついで母親で27%となり、箸のマナーは家庭で教えることが多いようである。しかし、核家族化により子供のしつけが十分にできなくなってきている現実もあり、学校で習ったという学生が7%、また、その他として習った覚えのない

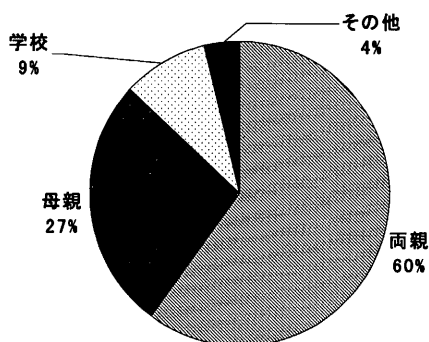


図7 箸のマナーを習った人

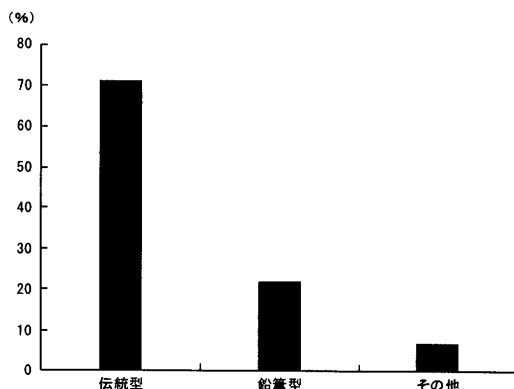


図8 箸の持ち方

い学生もいた。箸のマナーは毎日の小さな繰り返しが一生涯の習慣になり、食卓こそ、そのマナーを教える一番の場所であり、家族で食卓を囲むことを大切にしていきたい。

次に、箸の持ち方についての結果を図8に示した。

図8より、伝統型が正しい箸の持ち方で71%、鉛筆型を含め、正しい箸使いをしていない学生は29%であった。箸は人が手食していた時代の指の機能を補足する道具で、その箸を使いこなし、どんな食べ方にも対応できる持ち方は、5本の指それぞれの役割が発揮できる伝統型の持ち方である。その持ち方は、箸の重心付近を支える第一指の位置が作用箸の支点となり、箸先の開閉角度は大きく、箸先をぴったり閉じることができなければならない。伝統的な持ち方は箸の支点の位置を変えずに箸を動かせるが、そうでない持ち方は対象物の固さ・柔らかさや形の大小により、そのつど支点の位置や手首の角度を変えなければならない。

作業中に箸を持ち替える必要のない伝統的な持ち方は効率的で見た目も美しい<sup>10)</sup>。

箸使いは自然とその人の人柄がにじみでてくるものである。「お箸の国」と呼ばれる日本人であるために、自国の食文化を忘れず、伝統的な箸使いをするために、私たちはこれから母親になる学生に色や柄で箸を選ぶのではなく、自分にあった箸の長さなど機能面から箸を選ぶことから教育していかなければならないと実感した。

#### 4. 要 約

我々日本人の食事に欠かせない「箸」について学生はどのような関心を持っているのか、市場の調査も含め調査した。その結果を要約すると次のようになる。

- (1) 学生が普段使っている箸の長さは20~23cmが84%で最も多かった。
- (2) 箸の購入者は家族が52%で最も多く、購入理由は71%がデザインや値段で選んでいた。
- (3) 市場調査ではデパートは箸の長さが明記してあり、長さの種類も豊富だが、スーパー等では箸の長さが明記されておらず、長さの種類も少ない。
- (4) 箸のマナーについて、迷い箸については100%の学生が知っていたが、逆に、しごき箸



と涙箸を知っている学生は20%前後であった。

(5) 箸のマナーを教えてくれた人は87%が両親か母親であった。

(6) 箸の持ち方については29%の学生が正しい箸の持ち方が出来ていなかった。

## 引用文献

- 1) 岡田哲：食の文化を知る辞典，東京，東京出版，1998.
- 2) 永山久夫：たべものはじめて物語，東京，河出書房新社，1989.
- 3) 石毛直道：食事の文明論，東京，中公新書，1982.
- 4) 向井由紀子，橋本慶子：家政誌，28，3，1977.
- 5) 長田真澄：日本料理－理論と実習，新評論，1980.
- 6) 吉川誠次，江後迪子，下村道子，高正晴子，橋本慶子：食文化論，東京，建帛社，2002.
- 7) 新家庭一般，東京，教育図書.
- 8) 太田昌子：家政研，奈良，22，42，1975.
- 9) 向井由紀子，橋本慶子：家政誌，29，7，1978.
- 10) 向井由紀子，橋本慶子：ものと人間の文化史「箸」，東京，法政大学出版局，2001.
- 11) 小泉和子：ちゃぶ台の昭和，東京，河出書房新社，2002.